

被害状況の広域・瞬時把握を目指す

研究統括（災害情報の広域かつ瞬時把握・共有） 田口 仁

Point

- 災害時に活動する様々な災害対応機関の被害状況の認識を統一に貢献
- 各種災害情報及びセンサデータの統合処理に基づく被害状況の常時把握
- 非防災分野を含む多種多様なマルチセンシングデータの活用

概要

災害は被害が生じることではじめて災害として認識され、様々な組織により様々な対応が同時並行で行われます。災害の発生をあらゆるセンサを活用して捉え、被害状況を瞬時に把握し、災害対応に効果的に活用するための取り組みを民間企業、大学、研究機関を含む17機関が共同で研究を行っています。

様々な人工衛星を統合して活用するための「衛星マルチセンシングデータ統合技術の開発」、様々な地上のセンサを活用する「地上マルチセンシングデータ収集・集約技術の研究開発」、これらマルチセンサを統合・融合して被害状況を常に把握する「災害時被害状況常時把握技術の研究開発」で構成されています。



今後の展望・方向性

今後、様々なセンサによる観測データや災害情報が登場することが予想されます。新たなセンサや災害情報が被害状況の把握に活用できるために、継続的な研究開発や実証が実施できる体制構築が重要です。そこで開発や実証された情報・データを活用した

被害状況の把握に資する情報プロダクトが、サービス化されて災害対応が利活用できる社会を目指して、技術開発と社会実装の両輪で研究開発を進めていきます。

本研究プロジェクトは、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が主導する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期の課題「スマート防災ネットワークの構築」（研究推進法人：防災科研）におけるサブ課題A「災害情報の広域かつ瞬時把握・共有」（研究開発責任者：田口 仁）において、2023～2027年度の期間で実施しています。

